

景観とみどりの基本計画 キックオフシンポジウム

開催結果概要

1

1. シンポジウムの概要

■開催経緯

- ・ 白井市では「（仮称）景観とみどりの基本計画」の令和8年度末（2027年3月頃）策定に向け検討を進めている
- ・ 市の魅力向上や豊かな市民生活の実現に結びつく本計画は、市民や市内関係団体と協力し、ともに創り上げていく必要がある



■目的

- ・ 計画策定について市民や市内関係者への**情報提供**
- ・ **景観・みどり**に関する行政・市民・市内関係者間の認識の共有

■開催概要

開催日時	2024年9月28日 13:30～16:00
会場	白井市文化会館 かおりホール（中ホール）

1.シンポジウムの概要

■プログラム

時間	プログラム	内容
13:30～ 13:40	開会挨拶・ 趣旨説明	開会挨拶 「景観とみどりの基本計画」策定の経緯及びシンポジウムの趣旨説明
13:40～ 13:55	話題提供①	白井市における「(仮称)景観とみどりの基本計画」策定に向けたポイント 千葉大学 名誉教授 北原 理雄 氏
13:55～ 14:35	取組紹介	白井市における既存の取組について NPO法人しろい環境塾 理事長 渡邊 康夫 氏 しろいふるさとガイドの会 会長 市川 善美 氏 一般社団法人まどかこどもレグル 代表理事 嶋本 祐子 氏
14:35～ 14:55	話題提供②	市外事例の取組について NPOフュージョン長池 創設者 富永 一夫 氏
14:55～ 15:05		休憩
15:05～ 16:10	パネル ディスカッ ション	白井市での暮らしに対する景観・みどりとの関わりと、計画策定に向けて白井市で重視すべき事項について (パネリスト) NPO法人しろい環境塾 理事長 渡邊 康夫 氏 しろいふるさとガイドの会 会長 市川 善美 氏 一般社団法人まどかこどもレグル 代表理事 嶋本 祐子 氏 NPOフュージョン長池 創設者 富永 一夫 氏 白井市長 笠井 喜久雄 氏 (コーディネーター) 千葉大学 名誉教授 北原 理雄 氏
16:10～ 16:15	閉会挨拶	

1.シンポジウムの概要

■登壇者

- ・ 景観・みどりと都市計画を専門とする学識として、千葉大学 北原理雄名誉教授に登壇いただいた。
- ・ 市内で景観・みどりに関わる活動を行う市民団体として、「NPO法人しろい環境塾」「しろいふるさとガイドの会」「一般社団法人まどかこどもレグル」の各団体代表者に登壇いただいた。
- ・ 行政・市民・市内関係者等の多様な人が協働で景観・みどりの保全・活用の取組を進める先進事例団体として、「NPOフュージョン長池（東京都八王子市）」の創設者に登壇いただいた。
- ・ 白井市の代表として、白井市長が登壇した。（パネルディスカッションのみ）

	氏名	所属
学識	北原 理雄	千葉大学 名誉教授
市民団体①	渡邊 康夫	NPO法人しろい環境塾 理事長
市民団体②	市川 善美	しろいふるさとガイドの会 会長
市民団体③	嶋本 祐子	一般社団法人まどかこどもレグル 代表理事
先進事例団体	富永 一夫	NPOフュージョン長池 創設者
白井市	笠井 喜久雄	白井市長

2.各講演の概要

■話題提供①：白井市における「(仮称)景観とみどりの基本計画」策定に向けたポイント (千葉大学 名誉教授 北原 理雄氏)



- ・「景観」とは、広辞苑によると「自然と人間界とのことが入りまじっている現実のさま」である。景観は、自分たちを含めて、人の暮らしの有様を見ることである。
- ・2009年、2017年において、市原市では市民と行政等が一体で景観まちづくりフォーラムが開催されている。
- ・景観は、地域の歴史や文化、人びとの生活が目に見えるかたちで表れたものである。地域の健康は“景観”に表れるため、景観は総合的バロメーターである。
- ・景観に注意を払い、大切にすることは、地域の環境と生活の質を高めることにつながる。
- ・白井には、新しい街、街のみどり、生業のみどり、谷津田と里山等の豊かな景観・みどりがある。良く見守っていかないと豊かな景観・みどりが失われてしまうため、市民と行政が力を合わせて磨き育てることが大切である。

2.各講演の概要

■取組紹介：白井市における既存の取組について ①NPO法人しろい環境塾 (NPO法人しろい環境塾 渡邊 康夫 理事長)



- ・NPO法人しろい環境塾は、不法投棄への対応をきっかけにはじまり、白井市平塚地区を中心に、樹林地や田畑の管理をして活動している。
- ・白井市は、豊かな里山の景観が残っており、心和む谷津田の景観を取り戻したいという共通の願いを持っている。
- ・運動公園の森を手入れし、間伐材を有効利用するために炭焼を行い竹炭にする活動をしている。
- ・農業支援部では、耕作放棄畑を生産農地にして野菜や小麦の栽培をしている。昔ながらの方法でする稲刈りやカメの調査を実施している。
- ・下手賀沼の景観を復活させる取組として、助成金も利用し、生き物とのふれあいや交流、環境保全活動等を通じて、下手賀沼を身近に感じてもらう活動をしている。
- ・地元関係者との信頼関係の構築を大切にしており、活動に参加する会員の拡充のため、活動への参加は自由とし、楽しみながら実施している。

2.各講演の概要

■ 取組紹介：白井市における既存の取組について ②しろいふるさとガイドの会 (しろいふるさとガイドの会 市川 善美 会長)



- ・しろいふるさとガイドの会は、歴史や文化財、自然や生活、地形や地名など、白井の見所を学び、それを伝える活動している。
- ・ガイドの会は、白井散策マップが健康づくりを目的として作成され、そのコースを解説・案内するために、養成され創設された。
- ・主な活動は、市民大学校の講座、市の施設からの依頼、小学校3年生の社会科の授業、市民活動団体からの依頼等で、講習・散策ガイドを行っている。近年では、R元年に千葉県教育委員会の催し「文化財探検隊」、R2年に鎌ヶ谷青年会議所主催「しろい七福神巡り」でガイドをした。その他、白井の名所を絵葉書にして売上金をこども食堂に寄付している。
- ・ガイドコースには、「渡り鳥を眺め、名馬の痕跡を辿りながら歩く」～七次地区のしろい散策～、「平安時代の痕跡が多く残る邑を歩く」～清戸・谷田地区のしろい散策～、などがある。

2.各講演の概要

■ 取組紹介：白井市における既存の取組について ③まどかこどもレグル (一般社団法人まどかこどもレグル 嶋本 祐子 代表理事)



- ・まどか幼稚園は、子どもたちが四季の移り変わりを感知することができるように保育している。
- ・まどか幼稚園での取組を発展させるかたちで「まどかこどもレグル」を2021年に創設し、音楽療法や学童保育、自然教育、つばめ食堂の運営を行っている。
- ・自然に触れて、感動し、自然の変化を感じ、好奇心や探求心を育み、また身近な動植物に心を動かされる中で、命あるものを大切にする心を育むことを重要と考えている。そして、子どもたちに芽生えた心が広がるよう、保護者の理解と関心につながる機会を作っている。さらに、将来、白井に還元されるよう、地域の自然に親しみ興味関心を育む機会を作っている。
- ・2018年から、けやき台多目的広場に白井市と協働でビオトープを作り自然体験の場としての活用を開始している。

2.各講演の概要

■話題提供②：市外事例の取組について

(NPOフュージョン長池 創設者 富永 一夫氏)



- NPOフュージョン長池は、長池公園をはじめ、81カ所の公園・緑地を管理しており、20～70代の幅広い世代が活動している。阪神淡路大震災の発生の際、いざという時に住民同士が助け合えないと思ったことが、設立のきっかけである。
- 「三代続いて土地っ子」というように、孫・子の世代にいかに関わり続けるかを考えて活動をしてきた。
- 公園の管理では、「地域資源融合型公園経営の設計図」を描き、その設計図には、岩盤（行政）、表土（指定管理者）、お花畑（公園利用者）、雨（モノやカネを持ち込む人）、風（役立つ情報を運ぶ人）、太陽（マスコミ等褒める人）を盛り込むことが重要である。
- 経営の四資源として、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が大切である。その中でも、地域と公園が融合する経営資源として行政人、企業人、教育人、福祉人、地域人などの「多様なヒト」が重要である。
- 平成28年に代表を退き、当時30代の現代表へバトンタッチをした。さらに次の世代へつないでいくための人材育成の手法を現在実験中である。

3.パネルディスカッションの概要

■パネリストディスカッション：白井市での暮らしに対する景観・みどりとの関わりと、計画策定に向けて白井市で重視すべき事項について

●景観とみどりの策定に向けて重視すべき事項



○コーディネーター

北原 理雄	千葉大学 名誉教授
-------	-----------

○パネリスト

渡邊 康夫	NPO法人しろい環境塾 理事長
市川 善美	しろいふるさとガイドの会 会長
嶋本 祐子	一般社団法人まどかこどもレグル代表理事
富永 一夫	NPOフュージョン長池 創設者
笠井 喜久雄	白井市長

【市川会長】

- 白井市は、2万7千年前から人が住む一方で、ニュータウン開発もされ、古いと新しいが両方ある。高地は梨園、低地は田等、地形に適応して生活している。

【渡邊理事長】

- 平塚周辺では休耕地が増えている。放棄地が外国人に貸し出される等問題が発生している。行政が中心となって解決してほしい。
- 金山落周辺では、ナガエツルノゲイトウが稲の生育を阻害しているため、駆除している。

【嶋本代表理事】

- 自然の中で、子どもたちが遊び、正しい情報を持ち、豊かになるとよい。そのために、自然がある場所、生き物等の正しい情報が大切である。

【富永氏】

- 人とみどりが関与しなければみどりは残らない。「人」として、行政と市民のつなぎ役となり、世代をまたぎ景観やみどりに関わる中間支援の人材が必要である。

【笠井市長】

- 貴重なみどりを市がどのように活かすか、次時代に繋げるか、土地所有者だけに求めるのではなく、市民と分担し、いろんな活動と繋げながら計画の策定を行いたい。

3. パネルディスカッションの概要

■パネルディスカッション：白井市での暮らしに対する景観・みどりとの関わりと、計画策定に向けて白井市で重視すべき事項について



●景観・みどりに関する施策・取組の推進体制

【富永氏】

- 行政に、温厚に革新を求める人材、市民の話を聞き、市民の言葉で話ができる人が必要である。人材育成がすべてである。

【嶋本代表理事】

- 「景観」という言葉を通したときに、人にとって心地よい環境と生物多様性として重要である環境は必ずしも一致しない。生物多様性があふれる環境の重要性について、国・県よりも解像度の高い市の計画で示されることに期待している。
- プラットフォームのようなものがあり、白井市全体の取組が見えるようになると、活動の広がりや安心感が生まれると思う。

【渡邊理事長】

- 金山落の河口から名内橋の間で拡幅工事が始まるため、新たな護岸に桜を植えるのかについては地域の方と考える必要がある。
- 公園等のみどりの管理に当たり、刈った竹等は民間の処理場での処理が必要で費用が発生する。計画にはそのような費用にも言及してほしい。

【市川会長】

- 私有地に関して計画へ盛り込むのは困難だと思うが、この機会に議論できれば良い。交通量の多い道路への歩道の整備、荒地で放置されている土地の整備をしてもらいたい。将来の世代に続く計画となり、白井をより知ってもらうことで愛着につながれば良い。

【笠井市長】

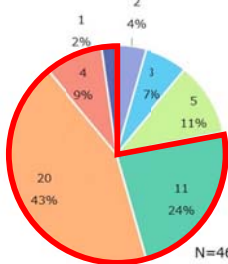
- 計画を作るだけでなく、そのプロセスに市民等の思いや意見、活動を結びつけることが重要と考えている。行政だけで白井市の景観を守ることではできないため、市民・企業と一緒にどのように白井の景観を生かしていくのかを考え、計画策定を行いたい。

4. 出席者アンケート結果

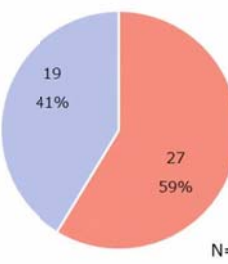
■個人属性について

Q1：年齢

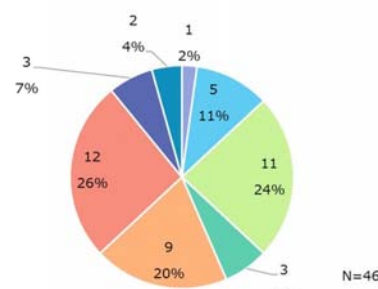
- 60代以上が7割を超える。



Q2：性別

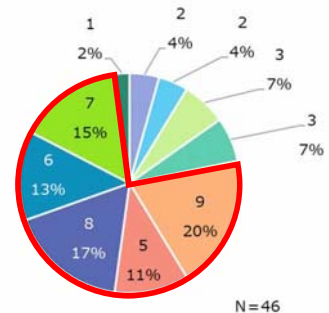


Q3：職業



Q4：居住地区

- 清水口小学校区や南山小学校区等、ニュータウン地区の住民の出席者が比較的多い。

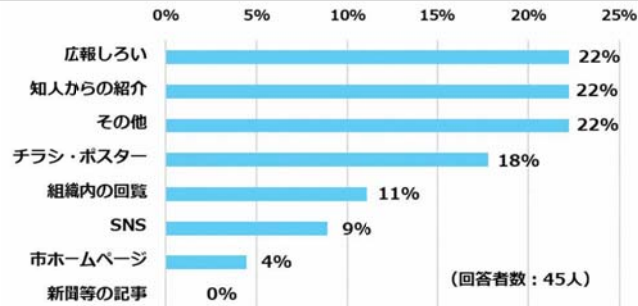


4.出席者アンケート結果

■シンポジウムについて

Q5：何を見て来られましたか？（複数回答可）

- 「広報しろい」「知人からの紹介」の回答数が最も多い。

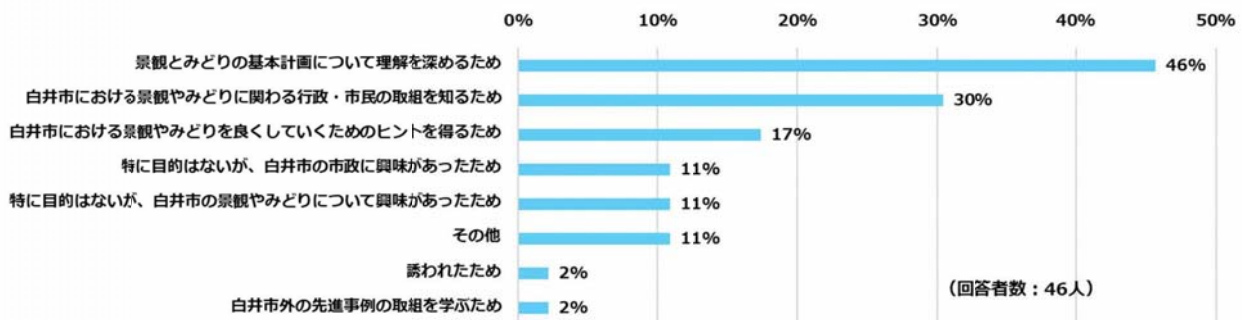


※「その他」の内容

市役所からの手紙	4
市役所からのメール	3
その他	2

Q6：今日のシンポジウムに参加した一番の目的は何でしたか？（複数回答可）

- 「景観とみどりの基本計画について理解を深めるため」の回答数が最も多い。

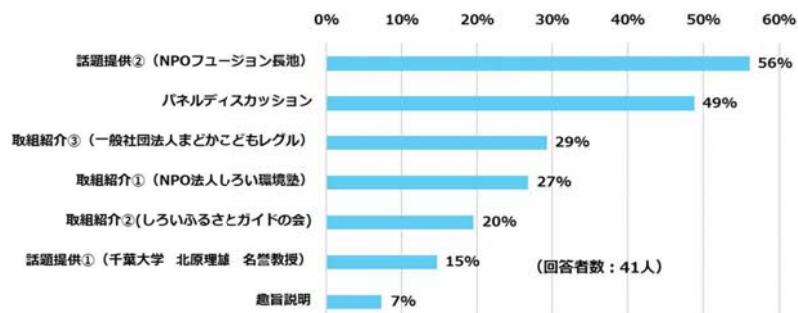


4.出席者アンケート結果

■シンポジウムについて

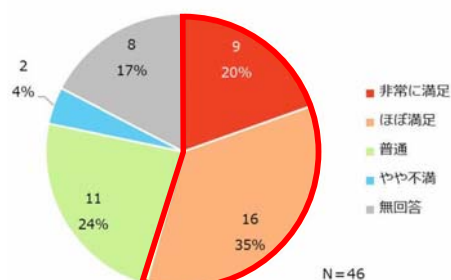
Q7：一番参考になった情報は何ですか？

- 「話題提供②（NPOフュージョン長池富永氏講演）」の回答数が最も多い。



Q8：総合的に、今日のセミナーに対する当初の参加目的は達成できましたか？

- 半数以上から「非常に満足」「ほぼ満足」の回答が得られた。

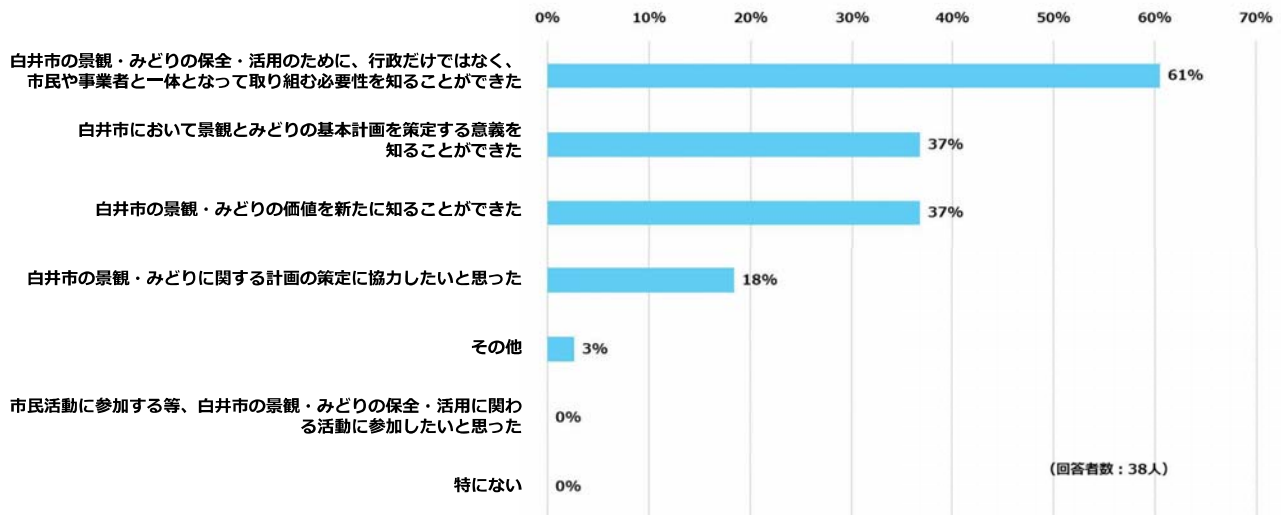


4.出席者アンケート結果

■シンポジウムについて

Q5：今日のシンポジウムの参加によってどのような変化がありましたか？

- ・「白井市の景観・みどりの保全・活用のために、行政だけではなく市民や事業者と一体となって取り組む必要性を知ることができた」の回答数が最も多い。
- ・次いで、「白井市において景観とみどりの基本計画を策定する意義を知ることができた」「白井市の景観・みどりの価値を新たに知ることができた」の回答数が多い。



4.出席者アンケート結果

■シンポジウムに関する感想・意見等

Q7：シンポジウムの感想や、講演・パネルディスカッションに関しての意見など（自由形式）

- ・シンポジウムの内容として、「都市（主にニュータウン地区）の景観・みどりの内容が乏しい」「民有地のみどり（耕作放棄地等）の問題を掘り下げて欲しかった」という意見がみられた。

景観について…

- ・白井市の「人」がかかわる主要景観はニュータウンの北総線沿い464号線沿いの都市景観である。開発業者にも市は景観の配慮、緑の推進をもっと指導すべきである。
- ・「景観を大切にすることは、地域の環境と生活の質を高めることにつながる。ボーっとしていると大変なものが建ってしまう。」という北原教授の言葉は、今のデータセンターの建設と、近隣住民の方の生活に直結する話だと思った。
- ・里山の景観だけでなく、市街地（特に住宅地）の景観についての深堀りが欲しかった。
- ・この計画策定がいわゆる「行政」で終わるのではなく、白井市の良好な景観と緑が守れるツールになることを願っている。
- ・私的には産廃の山をなんとかしてほしい。在来の景観を良くしてほしい。

人材育成について…

- ・人材を育てることが宝の山となる、是非実行していただきたい。
- ・人材育成の大切さ、人材育成やプラットフォームの重要性が理解できて為になった。

みどりについて…

- ・「みどり」→新規事業に対する緑化率の考え方を知りたい。
- ・みどりの計画内容を遂行して欲しい。
- ・街中や駅前の緑（雑草）もどうにかしてほしい。
- ・「笹竹」の処理など同じ悩みだった。

4.出席者アンケート結果

■シンポジウムに関する感想・意見等

Q7：シンポジウムの感想や、講演・パネルディスカッションに関しての意見・感想

まちづくり・白井市について…

- ・南山小学校区まちづくり協議会の「まちづくり計画」に活かしたい。
- ・景観を守るだけでなくこれを利用して街の活性化を推進して両立を図ってほしい。
- ・富永氏の発言を主に議論が展開していたが、富永氏の活動の基礎は公共用地である公園の指定管理者の経験が基となっており、民有地に残っている林地、農地（耕作放棄地）をどうするかということが白井市の場合は問題であり、この点についてもっと掘り下げて欲しかった。
- ・耕作放棄地をいかに活用するかが課題であると思う。
- ・「基本計画」策定→条例化を早期に!!（印西に比べかなり遅れている）
- ・市街地調整区域の乱開発の防止、景観条例の制定が必要だと思います。
- ・緑を中心に議論が進んでいるが都市についての意見が少なすぎた。

その他…

- ・身近な問題としてシノダケの処理について興味深かった。
- ・様々な活動があることを知りました。
- ・富永先生の孫子世代に繋がる設計主旨が心に響きました。
- ・大変勉強になりました（白井市の環境について活動されている皆さんの内容がよく分かりました）
- ・白井市は首都圏30km以内の地域でその緑地率が50～58%と高く、緑豊かな土地柄であることを知りました。
梨を基幹作物とした農地が基本であること、かけがえのない農業地帯であり、古い歴史と新しい文化の都市のようです。
耕作放棄地をいかに活用するかが課題であると思います。
- ・非常に刺激的で有意義だった。
- ・「基本計画」策定→条例化を早期に!!（印西に比べかなり遅れている）
- ・パネルディスカッションは、予定調和で、ディスカッションでは無かった。
- ・コーディネーターや参加者の声がよくもってたり、マイクの音が反響したりくぐもったり発表内容がよく聞き取れなかった。従って内容がよく分からなかった。
- ・とても興味深いシンポジウムでした。白井に住んで30年。仕事にかまけて余り興味も示さず過ごしてきましたが今后は少しずつ自分ができることを探りながら活動に参加したいと思っています。（ふるさとガイドなど）ありがとうございました。
- ・ワークショップ、参加したいです。
- ・みなさんのお話を聞き参考になった。
- ・シンポジウムの形式→オンラインのハイブリットと音声文字化も試みてください。もしくは要約筆記"
- ・楽しく参加する業をおぼえて、手伝いたいです。